

大盛況 初夏まつり

250人超

毎年7月に開催していたバーベキュー大会をやめ、代わりに初夏まつりを開催しました。「夏祭りみたい」と入居者も楽しめました。屋台やボランテニア・舞台出演などたくさんのご協力を頂き、ありがとうございます。お待ちしております。

屋台はふくろうの郷家族会をはじめ、各団体からのご協力で、お好み焼き・焼きそば・かき氷など全部で12店。どの屋台も大盛況で、あっというまに完売!! 入居者も自分で好きなものを購入するの「次は何食べよう」「おいしい」「おなかいっぱい食べました」と笑顔でした。



▲焼きそばを購入される 旅田澄江さん

▼入居を心待ちにされている方と参加された垂水のみなさん



▲ふくろう神輿がやってきた!

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

たくさんのご協力・ご来場ありがとうございました

「たかし&ただし with まもる」はろうのたかしさんと健聴のただしさん・まもるさんの3人組です。昨年のおふくろうふれ愛まつりに出演予定でしたが、台風で中止になり、今回の出演となりました。手話歌は3曲披露され、アンコールの声がかかるほど心に響く歌でした。きこえる聞こえない関係なく、見て、聞いて、一緒に手話で歌って楽しめ、まさに会場が一体化したライブでした。

入居者による手話劇「浦島太郎」。広島彰さんは自ら手話劇をやりたいと強く熱望され、浦島太郎の主役に抜擢。クライマックスの浦島太郎が玉手箱を開ける場面では、玉手箱の蓋に隠れながら白髭と白髪を着けて、蓋を下すと真つ白なおじいさん!という演出で、客席は大爆笑につつまれました。



▲手話劇 主役の広島彰さん(右)と亀役の山下輝興さん

先日、地元中川原でご支援いただいている荒浜悦子様からお便りをいただきました。明石市の人丸町にある「柿本神社」第160回献詠大会に奉納した歌が入賞したという喜ばしいニュースでした。
 「笹に吊りし 拙き文字が語り合ふ
 聾啞ホームの 七夕まつり」



▲アンコールとなった「虹」を歌う たかし&ただし With まもるさん

▼フィナーレはふくろう音頭! 会場の皆さんと一緒に踊りました



ふくろう物語

長谷川清さん

長谷川さんは、大阪府茨木市生まれの75歳です。5人兄弟の末っ子で清さんだけ子どもがいません。

大阪市立聾学校を卒業後、シヤッターを作る仕事に入りましたが、20歳でやめ、日東電工という会社でビニールテープを作る仕事をしていました。30歳で結婚、共に働きながらろう協行事に奥様と共に参加され、交流を楽しんでおられたようです。

作業所を経て

ふくろうの郷へ

60歳で退職後はゲートボールなどを楽しみ、その後、北摂聴覚障害者センター「ほくほく」に通い、就労支援を受けていました。奥様が5年前に亡くなり、独り暮らしとなり、体調を崩すことが増えた長谷川

さん。心配した作業所の職員などの勧めもあり、長谷川さんが以前見学し気に入っていたふくろうの郷への入居に結びつきました。

入居後は、ユニットで皆が食事の際に使うおしぼり作りなどにやりがいを感じ、自らの役割を見つけ、行動を広げられています。また、お洒落や身だしなみに関しても手を抜かない長谷川さん。夜中はステテコ姿で歩いていても、朝になると、スラックスをはいてハンチング帽をかぶりリビングに現れます。

先日起きた大阪北部地震では以前生活していたところが震源地に近いこともあり、ろう者仲間が被害にあわ

なかったか心配されていました。

旅行が趣味で大阪のろう協会の行事で奥様と一緒に日本各地を旅行されたとか。以前北海道旅行で食べた「にしん蕎麦」と「ラーメン」がとてもおいしかったので、また行きたいと話されていました。淡路ふくろうの郷で暮らしていただきながら、長谷川さんの気持ちに寄り添って行きたいと思います。(生活援助員 神代雅司)



▲お気に入りのハンチング帽をかぶって

谷口忠男さんの83歳のお祝いのため、出身の香川県でろう学校小学部からのお友達である旅田澄江さんにも同席していただき、ケーキとお茶を囲みました。旅田さんから、谷口さんの運転でよく一緒にドライブに行かれたこと、ろうあ協会では会計を担当され活躍されていたこと、木材加工の仕事をされていて机やタンスを作っていたことなど、谷口さんの人生が語られます。

谷口さんは、旅田さんの手話での語りをじっと見つめて

していました。お話が終わり、改めて谷口さんにお祝いを伝えるとにこりと笑顔を浮かべられました。

(生活援助員 川満和則)



▲谷口さん好物のプリンでお祝い



誕生日のお祝い



▲竹邊さんケーキでお祝い (左)

6月に誕生日を迎える長田道子さんとお寿司を食べに行きました。お店に入りお寿司を見ると笑顔が見られ、10皿も召し上がりました。おしゃべりの量も普段に比べて増え、いきいきとお食事を楽しまれていました。

(生活援助員 飛松和身)



▲長田さん久々にお寿司を堪能

いつもは「お寿司、お寿司」という竹邊正晴さん。78歳の誕生日の今日は特大のケーキを希望。喫茶スペースでみんなにお祝いしてもらいご満悦。得意気にろうそくを消していました。

**淡路から20名参加
全国ろうあ者大会
4700人大阪に集う**

6月7日〜10日、全国ろうあ者大会 in 大阪で全国から4千7百名の参加があり淡路ふくろうの郷からは3名の入居者が9日、10日と参加されました。黒崎時安さんと吉見輝子さんは高齢者のつどいに参加されバスで道頓堀や通天閣に行き自由行動で串カツを食べに行ったりして、大阪の街を満喫されて



▲黒崎さん思い出の心齋橋グリコの看板の前で

(生活援助 浦手 寛仁)
影、交流をされ楽しまれました。式典や和太鼓の演奏、手話劇も見られ、時々疲れた様子も見られました。が、心配されていた天気も帰る道中まで降らず無事に帰って来れたので本当に良かったです。

**～子どもを生みたかった～
記者会見で断種について語る**



▲勝楽さん(左) 高木夫婦(右)

淡路ふくろうの郷に入居された平成18年以来、子供を生みたかった思いを「人形づくりに託してきた」と語り続けられた勝楽佐代子さん、全日本ろうあ連盟が、優生保護法を背景とした強制不妊手術などの被害調査の中間報告の記者会見では、勝楽さんも「二人産みたかったが夫が断種され夫と二人で精出した人形づくりにその思いを託してきた」「新しい手記を今日完成させた。是非とも読んでほしい」と訴えました。

大阪・福岡からの3人の参加者と共に、記者会見に応じた神戸市西区の高木賢夫・妙子さん夫婦は「結婚の条件とされた子供を産まないことの意味が分からなかった。母親に連れられて行った医院で下着を脱がされた手術台で初めて気がついた。悔しさを50年間我慢してきた。」と断種の被害を述べ、国に謝ってほしいし、黙って我慢している大勢の仲間に「私たちと一緒に立ち上がろう」と訴えられました。(理事長 大矢 暹)

いました。10日は大阪城ホールで全国ろうあ者大会の式典があり3人揃って兵聴協の書籍販売ブースで購入された方々とサインや握手、記念撮影、交流をされ楽しまれました。

6月6日、7日、総会が京都で開催され、1年間の取り組みや各施設の現状、今後の方針について話し合いがなされました。会長からは、他の施設に比べ介護だけでなく、聴覚障害にかかるコミュニケーション支援という面が生活支援の多くの時間を要し、職員の負担増となっているなど現状を細かく把握、分析し、支援の充実を厚生労働省に要望する中で、障害者生

魅力ある生活もっともっと発信を！！

30年度全国高齢聴覚障害者施設協議会総会

活支援加算の増額につなごうとした大変さだけでなく、他の施設にはない手厚いコミュニケーション支援を行っているという専門性という強みを生かした魅力ある施設としての生活介護の実践、入居者のくらしをもっと発信していくことの大事さについても参加施設の共感を得て、それぞれの施設が良さをアピールしていくことへの方向性があきらかとなりました。(施設長 辻愛子)

なお、施設の少なさから、遠方から入居する聴覚障害者が多いこと、地域や親せきからの孤立した状況が多く、そのため、訪問時間の長さや入院、看取りや死亡時の支援、介護度認定時の聴覚障害への配慮のなさから介護度が軽くなること等の問

**淡路聴覚障害者
センター 便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

◆あきらめずに続けること◆

平成9年から始めた移動相談も20年以上になります。家庭訪問を始めた最初の頃は家族がなかなか会わせてくれなかったり玄関先での簡単な挨拶ぐらいであったりですが、それでも定期的に訪問を続ける内に、「交通は不便だしどこにも行けらん。来てくれて嬉しいよう」と訪問を心待ちにしてくれ、信頼関係につながってきました。

◆ひびこひびこの暮らしを知るひびこかぶつ◆

日々の暮らしぶりをお聞きする中で、必要に応じ行政やサービス機関につながります。年金や補装具交付、ファックスなどの日常生活用具など利用できる障害者サービスなどの情報提供をしていくこと、

元気な顔に会いたくて ~移動相談~



また就労の相談や家族関係の悩みを聞くのも、移動相談の大切な役割のひとつです。

◆家庭訪問を心待ちに◆

移動相談は、旧町単位に行

い、市の広報紙で案内し、役場や公民館の一室で待ちますが、高齢者は移動手段がなく来れません。早速家庭訪問に出かけます。「元気にされているだろうか」と考えながら車を走らせます。施設に入所したと聞けば、そちらへ会いに行きます。健康状態や家族関係など気になる方がいれば、相談日以外にも訪問させてもらい、じっくりお話しを伺うようにしています。また、センターの行事の社会生活教室への誘いや「ふくろう新聞」を届けます。こうした情報も楽しみにされています。特に、当センターに来ることが難しい高齢者の方々には、この移動相談や家庭訪問は大切な活動だと考えています。これからも、元気な顔に会いに行きます。

(ろう相談員 吉川 稔)



通訳派遣で最も多いのは病院です。診察室には、医師と看護師、そして依頼者と通訳者。会話の中に「肺気腫」などの専門用語が次々と出てくることもしばしば。本人は痛くも苦しくもないので、軽く受け止め、「うんうん」とうなずいてしまう。理解できていないかどうか不明のため、医師に解りやすく説明し

訪問してわかることもあります

次回の移動相談は
9月26日(水)
淡路市役所と津名地区へ伺います。

情報提供や支援体制を
備えることの大切さ

6/2 福良津波防災ステーション

第2回社会生活教室は、福良津波防災ステーションで開催しました。南海トラフ地震はいつ起こってもおかしくない周期にきていると。地震が起きた時はまず日ごろの準備が大切であることを学びました。

22年前の阪神淡路大震災発生後の避難所では「なぜ列に並ぶのか分からない。どんな状況なのか知らないままの避難生活。情報が無いので

通訳行ったら
こんなことあるんです
通訳者『あるある』

てもらえるようお願いしても、医師は分かってもらったと思ってしまう。他の患者さんが待っているから...と長時間になるのを遠慮する気持ちもでる。医師も通訳者が来ているのだからと保護者代わりにような見方をされてしまう。大切な命の現場ですから迷ってはいただけませんが、通訳者の悩みどころです。

大変不安な毎日を通じた」と話される参加者。様々な場面での情報提供、支援の体制を整えなければと感じました。

(岡本久子)



▲災害の怖さを学び、日頃からの支援体制の充実を

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

デイサービスの利用者と 一緒に百歳体操

おのころの家



▲交流の場ともなっている百歳体操

毎週木曜日、デイサービスで百歳体操をしておられる時に、難聴者さんも一緒に参加してもらっています。テレビ映像に合わせて30分間位。かみかみ体操という口の体操も合わせる40分位。毎週、楽しんで参加されています。

デイサービスだけでなく、地域ふれあいセンターでいきいき百歳体操等の行事にも参加し、交流を深めることが大切だと思います。

紫陽花の切り絵が 完成し、喜んでいました

毎月1回第2木曜日は、ボランティア協力をいただいている小林さんに来てもらって、創作活動の手作りをしたり、ゲームをして交流したりしています。

6月は、切り絵で紫陽花の額を作りました。毎回、いろいろ趣向をこらした物を考えてくださって、楽しみにしています。



▲梅雨の季節にぴったりのアジサイの切り絵ができました

(支援員 藤本 美保子)

兵庫県ろうあ者大会特別決議一部紹介

2018年3月、(一財)全日本ろうあ連盟が、全国の加盟団体を通じて聴覚障害者の被害実態の調査に乗り出したことによって、兵庫県でも(公社)兵庫県聴覚障害者協会をはじめ関係団体が協同して、県内の聴覚障害者の被害実態の調査を実施しました。調査を進めていく中で、説明もなくいきなり不妊手術を強いられた事実や、血が悪いからと中絶させられた事実、生まれた我が子を親兄弟が一方的に引き取り自ら育てることができなかつた事実、子供の頃に母が私の手を引っ張り池で死のうとした、結婚そのものを諦めさせられ、牛や馬の様に働かされた等々のつらい過去が明らかになりつつあります。

しかし、断種等の被害を人権問題として訴える事が容易でない実態にあります。自らの辛い体験を話すためには、励ましてくれる仲間が存在や自分を守ってくれ、いつでも頼れる拠点となる施設・事業所が必要です。被害を受けた人たちの苦悩に向き合い、人としての尊厳ある暮らしの実現に向け、生き辛さを無くしていく障害者サービスの提供と仲間が集い、自主的活動を創り出していく拠点となる「聴覚障害者センター」等の設置を身近な地域に整備することを強く求めます。そして優生思想を克服し、誰もが必要な存在とされ、生き辛さをなくし安心して暮らせる差別のない社会の実現に力を合わせて取り組んでいきましょう。

(2018年5月24日第35回兵庫県ろうあ者大会)

デイサービスセンター「桜が丘」



▲「白玉あんみつ」を皆さんで手作りした後、6月誕生日の方のお祝いをしました。

西山明廣さん(左) 大谷ひふ美さん(右)

第5回わくわくフリーマーケット in 中川原

日時：7月22日(日) 10時～15時
場所：中川原地域ふれあいセンター建物内
11:00～ 200食限定!

シシ肉、玉ねぎフライのふるまい(無料)
今回の目玉は、

- ① 大野わらじクラブによる太鼓披露
- ② 14:00～ ピンゴゲーム
- ③ かき氷販売!(100円)
- ④ 流しそうめん!(200円)

友人、知人に声かけ参加をお願い致します。

神戸事業所 **安心して暮らせる**
福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デーサービスマンセンター

〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駒南通5-1-4 西高架下16号
TEL & FAX ... 〇七八・五七九〇七五五

**第21回神戸市聴覚障害者
福祉施設建設推進委員会**

**□募金の取り組みに知恵
や力を出し合おう**

今回は募金の取り組みを中心に話し合いました。「募金趣意書リーフレット」の配布や「私たちの願い小冊子」の販売、「聲の形映、画上映会」「手話言語国際デー」のイベントなどの企画が目白押しで目が回りそうですが、みんなで知恵や力を出し合い、頑張っていくことを確認しあいました。

**□施設づくりは地域の
方々と共に**

会議終了後、(社福)「かがやき神戸」の松本多仁子氏から「地域づくり」について学びました。



▲施設作りは地域づくりからと話す松本氏

松本氏は、新しい町で横のつながりがないところから施設作りをスタートした経験をお持ちです。まずは「遊びの会」を立ち上げ、障害の有無や年齢関係なく町の人たちと一緒に地域づくりをしてきた。障害のある人が地域で暮らせば、いろいろなトラブルが起こるが、それをチャンスとして分かち合ってもらえ、努力が、たくさんの方々の協力者に繋がってきたという話に感銘を受けました。

「知らない」ことは多くの誤解を生みます。まずは私たちのことを知ってもらおうとが地域づくりの第一歩だと思います。地域の中で育て

神戸施設建設をめざして

2018.6.28現在 募金合計額
45,974,956円
(プレート募金 66人)
目標1億円まで、あと
54,025,862円



6/24 県ろうあ者大会で募金を呼びかけ、当日2万円余りの協力をいただきました。

てもらおうこと、これは私たちの新しい施設作りの理念でもあります。神戸ろうあハウスの仲間も、新しい施設の完成を楽しみにしています。地域で何が求められ、地域の一員として何ができるのか、よく考え、行動していこうと思います。(野村 洋子)

7月・8月 ふくろうの暮らし

- 7/17 (火) 入居者自治会懇談会
ふくろう大学絵手紙講座
- 7/18 (水) ふくろう喫茶
- 7/21 (土) 地域交流会手話講座
- 7/22 (日) 中川原ワクワクフリマ自治会出店参加
- 7/25 (水) 地域を歩く(大照寺きゅうり加持)
- 7/27 (金) ふくろう大学料理講座・回想法
- 8/4 (土) 淡路島祭り「ふくろう淡路連」参加
- 8/6 (月) ふくろう理髪店
おのころ屋パン販売
- 8/12 (日) 淡路戦争展参加・中川原ふれあいセンター
- 8/14 (火) ふくろう大学書道講座
- 8/16 (木) 送り火のタベ
- 8/17 (金) ふくろう工房ちぎり絵
- 8/18 (土) 地域交流会手話講座



ふくろうの郷見学・実習予定

- 7/28 (土) 手話奉仕員養成講座集中講座 23名
- 8/26 (日) 宍粟市波賀生涯学習事務所
(しろうくすの木学級 35名)

ふくろうの郷見学者感想

・旧優生保護法の法律等による理不尽な差別を報道等で知りましたが、入所されている方の生い立ちを聞き、実際にあったと知り心が痛みました。
・お話しをうかがい感激しました。知らないことも多く大いに反省しました。人権とは何か、また豊かに生きるとは何かをよく考える必要があると思いました。
・町内にも聴覚障害者がいます。参考にできたらと思い参加させていただきました。過去の生活には驚きました。ふくろうの郷の良さがわかりました。(6/12 淡路市東浦民生・児童委員協議会)